

2024 年 第 4 回 VLBI 懇談会役員会 議事録

作成: 2024 年 12 月 6 日(金) 佐野栄俊 (岐阜大学)

本議事録は、2024 年 12 月 6 日(金)の 2024 年第 4 回 VLBI 懇談会役員会の開催前に配布した会議資料に、議論の内容を赤字で追記し、議事録として確定したものです。

1. 本会の開催日時 2024 年 12 月 6 日(水) 12:00-13:00

2. 開催形式 Zoom によるオンライン開催

3. 参加者確認

出席: 佐野, 米倉, 小林, 新沼, 青山, 石垣, 小川, 小山, 赤堀, 三澤, 藤澤,

欠席: 今井, 中川, 関戸, 寺家, 本田, 土居, 岳藤, 大木

4. 議題

(ア) VLBI 懇談会シンポジウムの紙版集録の出版を継続するか否か

(VLBI 懇談会シンポジウム総会で諮るための議論)

(経緯)

新潟大学での総会の際に、紙版の集録を出す必要があるのか。

その場の方で手を挙げていただく → 必要ないという方は多かった

役員会で議論するという事になっていた ()

主な議論の要点と結論

- 集録そのものを廃止する議論はなく、紙版の継続が問題となった。
- 紙版の作成にかかるコストや手間、会費の大部分が印刷費用に充てられていることが指摘され、印刷を廃止する方向が優勢だった。
- 役員会として、紙版集録の必要性を総会での挙手多数決により決定することを提案する。

- 各人の意見

集録は V 懇シンポの会員全員に送るので、現地にて希望を募る必要はない。

今後は希望者にのみ送るのではどうか？が、今井さんの提案ではないか。

(米倉)

- ・紙版が手元にある方が嬉しい（電子版だと多分読まない）。
- ・集録の PDF ファイルを作っておいて、自身で印刷でも OK（前回の VLBI 懇談会での意見）
- ・世話人の PDF ファイルを作る手間は減らない。

(赤堀)

- ・1 と 2 番は切り離して考える。
- ・紙版は不要（他のジャーナルなどもそうしており、問題が出ていない）
- ・組織としてやめるべき。

(米倉)

当日の発表に使ったスライドを回収すると同時に、集録として文章ももらっている。SOC はそれにページ番号などもつけている。赤堀さんはどれが大変だと思いますか。集録用に原稿を作るのは良いのは・

(赤堀)

印刷しないのは一貫しているが、電子版がどのような体裁になるかは分けて考えたい。今まで通りまとめたものを付けるのが良い。

(小林)

集録を作るかどうか、作らない場合はどうするか、分けて考える必要がある。集録を文章で作るとしても、プレゼン資料に加えて。すべて合わせると労力はかかる（これまではやってきたが）。その時の SOC の判断では。

(米倉)

印刷は必須ではない。内容については、後で議論したい。

(新沼)

印刷は必須ではないと考えている。内容やフォーマットは別の議論でその際にコメントする。

(三澤)

米倉さんや皆さんと同意見。

(小山)

私も基本的には同意見。印刷に反対ではない。あれば手にとって見たい。検索するよりも早いという意味合いで使うことができる。なかったらないで、PDF を見ることになると思います。そのため必須ではないという意見です。集録自体は陰性でも夏の学校で作っているので、集録自体はあると何かしらの形であるべき、あと院生にとってもまとめるというステップを踏むのは良いかと。

(佐野)

紙版をなくす理由は、SOC 他の手間が理由が大きい？

(小林)

SOC の負担軽減もあるが。会費のほとんどを集録費用として使っている。会費徴収が一番大変。

提案 (小林)

今井さんは紙版が必要と言っていますので、総会場で紙版が必要か挙手してもらって多数決で決めるのはどうでしょうか。この役員会での話の内容や、これまでの経緯も紹介した上で、みなさんに多数決で決めてもらう。

項目

A) 紙版を作る

B) 紙版を作らない

集録がいらないという議論はなかった。

VLBI 懇談会で、集録を作らない方針があるのか。宇電懇や光天連でも集録はない(スライドを載せるのみ)。集録は学生の鍛錬を含めて文章で書くのはどうか。

(イ) VLBI 懇談会の会費徴収をやめるか否か

主な議論の要点と結論

会費徴収の継続に関しては、集録の印刷版を廃止する場合、会費の用途と徴収のあり方を再検討する必要があるという点でほぼ一致。会費の主な使途である集録印刷費が不要になれば、会費を廃止する選択肢も現実的だが、旅費補助や雑費などの他の用途があるため、議論は継続が必要。

また、会則の変更については慎重な手続きを要し、総会での議論を経る必要がある。具体的な結論は次回の総会での会員の意見を元に役員会で決定する。

以下、各人の意見と議論

(米倉)

一番の問題は会費の徴収をどうするか(会則に書いてある)

→ 会則を変えるかどうか。他はメール会議でも良い内容。

(小林)

会費の中で集録印刷代が最も大きいので、いきなり会費をやめるかどうかという話にはならない。紙版廃止になった段階で、経費の使途はないのだけど(もちろん旅費補助には使える)、また持ち帰って議論する。

(米倉)

廃止ということになったら、すぐに会則変更？

(小林)

会費をどう使うか議論しなくてはいけない。なので、すぐに議論はできない。

(米倉)

2024 年は作らないことになるのか。そうする場合、来年度の会費を徴収する理由と齟齬が生じるのでは。

(小林)

以前は会費は集録だけではなく旅費の補助にも使っていた。

(米倉)

会則に年会費あり・なしと集録の関係が書かれているので、そこだけ議論する？

(小林)

次のステップとして考えたい。学生の旅費に使う場合は、紙版申請しない場合の会費の免除なしの取り扱いをどうするか。

(米倉)

2024 年の集録紙版いらなくなった場合、会則に矛盾するのでは。印刷しない場合は、会則を変えなくてはいけない。

(赤堀)

小林さんが言っていることに賛成。一時的に齟齬が生じることは問題ない。役員会が付託を受けている。紙版をやめることについて、総会で意見をとることは筋が通っている。その後の結果を持って、会員に連絡をして、そこから会費や会則を考える方が良いのではないか。それまでの間は、使途については活用するということをご理解をいただく。

(小林)

会費は、実際には賞状の印刷代他にも使われている。

(小山)

昨年度の収入・支出を見たところ、支出について 2022 年度の項目は、20 万円程度を集録作成に使われている。一人 2000 円、100 人で OK 。 そのほかの用途では、口頭発表賞などの副賞、会場費その他開催に関する雑費＋学生アルバイト代(5 万円弱から 10 万円)。2021 年までは、役員旅費補助にも使われていた。学生の旅費補助に使えるかどうかを昨年聞いたら、(会費からは)できなかったと聞いている。天文台研究集会から旅費補助を出した。

(小林)

会費は、学生の旅費補助に使える。天文台研究集会費がほとんど旅費補助なので、そちらから捻出することになっていた。

(米倉)

学生の旅費補助に使ってはいけないとは書かれていないので、総会での決算報告で反対がなければ使える。

=====

(会費)

第 9 条 (1)本会会費は、年間 2, 000 円とする。但し、学生会員は年会費あり(会費 1, 000 円、印刷版集録あり)と年会費無し(会費無し、印刷版集録無し)を選択できるものとする。

(会費)

第 9 条 (1)本会会費は、年間 2, 000 円とする。但し、学生会員は年会費を免除する。

=====

学生については1名いるのでかわいそう。学生は全額なしで。
順番を間違えなければ、当日中に会則考えても良い。

(小林)

総会で印刷版の集録なしといった段階で、学生もなしになるのでは、
該当者ゼロとして読み解く。

(米倉)

それなら大丈夫です。

(小林)

年会 2000 円に、手を入れなくてはいけない。こちらは落ち着いて議論。

(三澤)

会則の変更に必要なて続きは、年1回の総会に限るか、オンラインでできるか。

(小林)

会則は総会でしか変えられない。

25日の総会に付帯しても良いが、返金など事務局が大変になる。

(三澤)

会則は総会で変更すると書いてあるか。

(小林)

書いてある。

(米倉)

年1回としか書いていない。

でも、オンラインとはないので、年1回オンラインとしても良い？

(三澤)

会費の徴収を遅めからやるのが良い？

(小林)

実際はV 懇当日にほとんど集めている。

(佐野)

すでに 10 年間分払っている方もおられるので、事務局の負担は変わらない。

(小林)

総会に諮って決める。

集録を紙にするか PDF するかを、まずは本年会で諮る。

(米倉)

何を今回決めるべきか。集録がいないという意見もあったが。3 択（従来通り印刷、電子ジャーナルの集録、集録しない）議論が発散しそう。いずれの場合も、発表スライドの提出は必須。

(小林)

経緯を話したのち、まず集録をいないという強い意見がなければ、(1) 紙版、(2) PDF、総会はここまで。会費の議論→意見自体は総会で聞いて、役員会で議論するという方針を伝える。

(米倉)

印刷しないと決まったら、今回は印刷しない。そうすると、来年度の予算案をガラッと変えなくてははいけない。

(小林)

予算案はあると思って作らざるを得ない。その後は組み替える必要がある。

先に決算&予算

その後、集録の話題に。

5. 報告事項

(ウ) VLBI 局としての野辺山 45m 電波望遠鏡の周波数標準に関して（今井）

故障してしまった水素メーザーを管理する水沢 VLBI 観測所はじめ多くの方々のご関心・ご助言・ご支援のもと、復旧について模索しているところです。しかし、今年 1 2 月の 43 GHz/86 GHz 帯フリンジテストを最後に、しばらく VLBI 実験（特に 43 GHz 帯以上）ができる算段がなくなることだけにご留意頂ければ幸いです。

(米倉)

- 86 GHz は仕方がないが、22 GHz や 43 GHz 帯については、既存の装置で予算を追加せずに観測可能ではないか。

- 野辺山の観測時間（50-100 時間）を水沢に無償提供する合意はあるため、その枠内で試験を行うのが良いのではないか。

(小林)

水沢との調整は必要だが、提案に同意。

(青山)

水素メーザーがあれば、観測できるということで良いですか。

(小林)

はい

(青山)

極地研究所にある水素メーザー2 台（スイス製）を 1 年間貸し出すことが可能。ただし、運搬費用は貸与者側から提供できないため、その手配が必要。

(小川)

ぜひ実行できるように色々と配慮してほしい。運搬費用などどこから出すなど。

(小林)

水沢に伝えておきます。

(新沼)

V 懇談会シンポでぜひ議論をお願いします。

以上